

上尾市立大石南小学校 学力向上プラン「グランドデザイン」

学校教育目標

《心豊かでたくましい子の育成》

○思いやりのある子(徳) ○よく考える子(知) ○元気な子(体)

学校課題研究主題

「主体的に学び、自らの考えや思いを適切に表現することができる児童の育成」

～国語科授業(読むこと)における、学力向上につながる指導の追究～

学力・学習状況調査の結果

R6全国学力・学習状況調査	R6埼玉県学力・学習状況調査	R5 上尾市立小・中学校学力調査
<p>○国語、算数ともに平均正答率は全国平均を下回っている。</p> <p>○国語では正答率が比較的高い区分は、「読むこと」である。「情報に関する事項」の正答率は11.9%、「思考力・判断力・表現力等」の正答率は、10.4%と特に低い。</p> <p>○算数では、円グラフの読み取りはできるが、その情報を活用した問題に関しては正答率が全国平均より大きく下回っている。「C 変化と関係」の領域においては、全国平均-14.6ポイントで、他領域と比べて差は大きかった。</p>	<p>○昨年度からの同集団の学力の伸び 【国語】5年生1レベル、6年生0レベル 【算数】5年生0レベル、6年生1レベル</p> <p>○5年生は、学習方略の「努力調整方略」、非認知能力の「自己効力感」においてそれぞれ0.2ポイント、県平均を上回っている。R5 からの変化量を見ると、「柔軟的方略」が+0.5ポイントであった。</p> <p>○6年生は、学習方略の「作業方略」において0.4ポイント、非認知能力では「自己効力感」が0.2ポイント、県平均を上回る結果であった。R5 からの変化量を見ると、「柔軟的方略」「作業方略」が+0.6ポイントであった。</p>	<p>○国語では、校内の平均正答率が、目標値と「同程度」の学年がほとんどであった。特に「知識・技能」に関しては、6学年中5学年が「同程度」という結果であった。</p> <p>○算数では、校内の平均正答率が、目標値を「下回っている」学年が多かった。特に「思考・判断・表現」に関しては、6学年中5学年が「下回っている」結果となり、課題が見受けられた。</p>

本校で身に付けさせる学力

知識及び技能の習得	思考力・判断力・表現力等の育成	学びに向かう力・人間性等の涵養
<p>①一般的な語句などの語彙力、基本的な概念や技能、性質等</p> <p>②既習の知識をもとにして、新たな知識を学習する力</p> <p>③既得の知識及び技能を、他の学習や生活の場面でも活用するための力</p>	<p>④問題を見出し、解決のために「計画」「実行」「振り返り」を行い、次につなげる力</p> <p>⑤互いの考えを適切に伝え合い、多様な考えを理解する力</p> <p>⑥自分や集団の考えを形成し表現する力</p>	<p>⑦課題解決に対して、人に聞いたり調べたりして、粘り強く向き合う力</p> <p>⑧自己の感情や行動を統制する力</p> <p>⑨自己の思考や行動を客観的に把握し認識する、「メタ認知」に関わる力</p> <p>⑩互いのよさを生かして協働する力</p>

学力向上のための授業改善

知識及び技能の習得	思考力・判断力・表現力等の育成	学びに向かう力・人間性等の涵養
<ul style="list-style-type: none"> ・主に算数科において、習熟度別学習による個に応じた指導を行う。 ・「まなびポケット」や大型モニタ等を活用し、児童の視覚に訴える指導を行う。 ・各教科において、既習事項を振り返り、それを生かした課題解決を促すことで、知識の定着を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・思考力、判断力、表現力を高める言語活動を重視し、対話的な活動を重視する。 ・各教科、毎時間の授業において、学習課題を明確に示す。 ・課題に対して、個人で考え、記述する時間を毎時間の授業に設定する。 ・対話的活動を意図的に設定し、実践する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業準備、開始時刻を徹底し、落ち着いて授業を始める。 ・ICTを活用し、興味・関心を高められる授業を行う。 ・課題を明確にし、児童がねらいに集中し、主体的に学習に取り組める時間を確保する。 ・意図的なペア・グループ学習を取り入れる。

本校の特色ある取組

- ・毎時間の授業の充実(既習事項を生かして各教科の資質・能力を育てる授業)
- ・読書活動の充実 ・教科書の音読 ・20分の業間休み
- ・外国語学習の充実 ・縦割り活動による協働活動の充実
- ・幼保小の連携 ・環境教育の充実

家庭教育との連携

- ・家庭学習の習慣化 ・「まなびポケット」の活用
- ・一人一台のICT端末の効果的活用
- ・情報発信 ・学校応援団による支援
- ・個人面談、教育相談の実施 ・小中連携

2 学力向上を図る取組

(1) 各教科の授業における取組(低学年)

本校で身に付けさせる学力

知識及び技能の習得	思考力・判断力・表現力等の育成	学びに向かう力・人間性等の涵養
①一般的な語句などの語彙力、基本的な概念や技能、性質等	④問題を見出し、解決のために「計画」「実行」「振り返り」を行い、次につなげる力	⑦課題解決に対して、人に聞いたり調べたりして、粘り強く向き合う力
②既習の知識をもとにして、新たな知識を学習する力	⑤互いの考えを適切に伝え合い、多様な考えを理解する力	⑧自己の感情や行動を統制する力
③既得の知識及び技能を、他の学習や生活の場面でも活用するための力	⑥自分や集団の考えを形成し表現する力	④自己の思考や行動を客観的に把握し認識する、「メタ認知」に関わる力
		⑩互いのよさを生かして協働する力



教科・領域	重点的に身に付けさせる学力	具体的な取組	成果
国語	①②③④⑤⑥⑦ ⑧⑨⑩	<ul style="list-style-type: none"> ①毎日の音読、読書活動により、多くの文章にふれさせる。 ②③かたかなや漢字を適切に活用して書いたり、促音、拗音、長音、助詞の書き方や使い方を理解し、文章の中で言葉を正しく使えたりすることができるように、自分の考えや感想文、生活科の観察カードなどを繰り返し書く活動を行わせる。 ④初発の感想をもとに、単元計画を立てる。 ⑤小集団の中で、自分の意見を伝え合う場や感想を交流する場を設ける。 ⑥教材文を読み、自分なりの考えと理由をもつ経験を重ねさせる。 ⑦人の考えをよく聞き、自分の考えを広めさせたり、深めさせたりする。 ⑨学習を通して学んだことや考えたことを振り返り、次に生かしたいことを書く活動を取り入れる。 ⑧⑩音読劇などで、班で協力して、よりよい発表ができるようにする。 	
算数	①②③④⑤⑥⑦ ⑧⑨⑩	<ul style="list-style-type: none"> ①基礎的・基本的な計算技能の習得に向け、継続的な計算練習に取り組ませる。 ②既習の知識をもとにして、課題を解決させる。 ③具体物を操作し、場面をイメージしながら数量関係や図形の特徴などを考えさせる。 ④問題解決型学習を取り入れる。 ⑤文章問題をしっかり読み取らせるために、線を引いたり、図を用いたりすることで問題文をイメージできるようにし、立式につなげるようにする。 ⑥⑩自分の考えと友達のことを比べて聞き、よりよい考えを練り上げさせる。 ⑦設問文章から場面をとらえながら筋道を立てて考え、自力で解決する場面を設定する。 ⑧間違いを学びに活かすために、間違いを消させないようにする。 	

		⑨学習を通して学んだことや考えたことを振り返り、次に生かしたいことを書く活動を取り入れる。	
生活	③⑤⑦	③活動や体験、観察活動を通して、それぞれの特徴に気付き、場面にあった活動ができるようにする。 ⑤気付きを確かなものにしていくために、観察や活動の際には「見つける」「比べる」「例える」「見通す」「工夫する」という多様な学習活動を行わせる。 ⑦「町たんけん」など体験的な活動を通して、地域との関わりに気づき、社会との関わりについて深められるようにする。	
音楽	①⑤⑧	①音楽表現を楽しむために必要な歌唱、器楽、音楽作りの技能を習得させる。 ⑤ICT 機器を使い、曲を聴いて拍に合わせて体を動かしながら、体でイメージを表現させたり、音楽づくりをさせたりする。 ⑧拍の流れにのってカスタネットや手拍子でリズム遊びをさせる等の音楽体験を通して、主体的に学習を進められるようにする。	
図画工作	②④⑩	②手や体全体の感覚を働かせ、いろいろな材料や用具を使い、表現の仕方を工夫して自分の思いを表現させる。 ④感じたことや材料などから表したいことを思いつき、形や色、つくり方などを考えて表現させる。 ⑩身の回りの作品などの形や色などから、自分の感覚や行為を通して面白さに気付かせ、楽しさを感じさせたり、見方や感じ方を広げさせたりする。	
体育	②⑤⑨	②授業の中で十分な運動量を確保し、遊びの中で多くの動きを経験させる。 ⑤児童の良い動きを紹介したり、見つけさせたりすることを通して、基本的な体の動きや技能を身に付けられるようにする。 ⑨めあてをもって学習に取り組ませ、何が分かったか、身に付いたか振り返らせる。	
英語活動	①⑥⑦⑨	①児童が英語を発音する機会を多く設ける。 ⑥ゲーム活動やコミュニケーション活動を多く取り入れることで、英語に慣れていけるような場面を多く取り入れる。 ⑦児童の興味・関心が高まるような授業を展開していく。 ⑨ALTの協力を得て、指導体制の充実を図る。	
特別の教科 道徳	⑤⑥⑨	⑤自分自身の体験などを通して、理解するために、動作化や役割演技などを取り入れ、自分との関わりで考えられるようにする。 ⑥話合いの視点を示したり、ペアやグループでの話し合い、自分の考えをもとに、友達の考えを聞いたり、考えを深めさせたりする。 ⑨道徳ノートに書く活動を取り入れ、自分の思いや考えを見つめることができるようにする。	

A・・・取組の効果が十分に見られた B・・・今後も課題として取り組む C・・・取組を見直す

2 学力向上を図る取組

(1) 各教科の授業における取組(中学年)

本校で身に付けさせる学力

知識及び技能の習得	思考力・判断力・表現力等の育成	学びに向かう力・人間性等の涵養
①一般的な語句などの語彙力、基本的な概念や技能、性質等	④問題を見出し、解決のために「計画」「実行」「振り返り」を行い、次につなげる力	⑦課題解決に対して、人に聞いたり調べたりして、粘り強く向き合う力
②既習の知識をもとにして、新たな知識を学習する力	⑤互いの考えを適切に伝え合い、多様な考えを理解する力	⑧自己の感情や行動を統制する力
③既得の知識及び技能を、他の学習や生活の場面でも活用するための力	⑥自分や集団の考えを形成し表現する力	⑨自己の思考や行動を客観的に把握し認識する、「メタ認知」に関わる力
		⑩互いのよさを生かして協働する力



教科・領域	重点的に身に付けさせる学力	具体的な取組	成果
国語	①⑤⑥⑦⑨	<p>①毎日の音読、読書活動により、多くの文章にふれさせる。</p> <p>①国語辞典を使った意味調べや、漢字辞典を使った漢字及び漢字の使い方調べを行う。</p> <p>⑦⑨単元のめあて、本時のめあてを明確にすることで、見通しをもって学習できるようにする。また、何を学び、何が分かったかを考えて、まとめや振り返りを書かせ、自分の変容を記録させる。</p> <p>⑤⑥ペア学習や小グループなどで意見を伝え合う場を設け、自分の考えが深められるようにする。</p> <p>⑦読み取りの視点を明確にすることで、叙述を基に内容を捉えることができるようにする。</p> <p>⑥書く活動では、書き方の例を示し、相手や目的を意識しながら、文章の構成を考えて書くことができるようにする。</p>	
社会	②③④⑤	<p>④本時の「問い」を明確にして学習し、何を学び、何が分かったかを考えて、授業の終わり及び単元の終わりに「振り返り」を書くことを積み重ねる。</p> <p>①方位や地図記号、地図の見方などの基礎知識を繰り返し確認させる。</p> <p>④毎時間小見出しから学習問題を考えて、記述させる。(例:〇〇はどのように~しているのだろう)</p> <p>⑦資料の見方を丁寧に指導し、情報を整理、分析する力を養う。</p> <p>⑤⑥教科書や資料から分かったことや気付いたこと、疑問などをノートに書かせて、発表し合うことで互いの意見を交流させてまとめる。</p> <p>④学習したことを新聞にまとめる活動などを通して、学校図書室やICT端末で自ら必要な資料を検索・選択・使用する力を高める。</p> <p>⑦ICT機器を効果的に活用し、視覚的に理解させる。</p>	

算数	①③④⑤⑥	<p>③多様な数学的活動を工夫し、測定や作図などの活動を通して量感を養ったり実感をともなった知識を身に付けたりできるようにする。</p> <p>①少人数指導を取り入れ、個に応じた指導を行い、基礎・基本の定着を図る。</p> <p>④既習事項との共通点や違いなどから本時の課題を明確にする。</p> <p>⑥思考ツールを活用して自分の考えをノートに視覚化させ、記述によって説明させる。また、問題場面を絵や図、数直線などで表現させる。</p> <p>⑤既習事項との共通点や違いなどから本時の課題を明確にし、既習事項を活用したり、式や筆算、図、絵など使ったりして自分なりの方法で問題を解決する経験を積む。自分の考えを友達に伝える活動も積み重ねる。</p> <p>⑥問題を繰り返し読んだり、数直線や図、言葉の式に表したりして、問題の構造を捉えられるようにするとともに、答えの見通しをもたせて立式させるようにする。</p> <p>④課題やまとめに提示した言葉を用いながら「振り返り」を書かせて、学習内容や変容が分かるようにする。</p> <p>⑤ICT 機器を用いた数学的活動や意見交流を取り入れる。</p> <p>①個に応じた指導や支援を行い、基礎・基本の定着を図る。</p>	
理科	①③④⑤⑥⑦	<p>④本時のめあてを明確にして学習し、根拠を明らかにしながら、何を学び、何が分かったかを考えて、授業の終わり及び単元の終わりに「振り返り」を書くことを積み重ねる。</p> <p>④理科の問題解決学習(疑問→課題→予想→実験方法→実験→結果→考察→まとめ→振り返り)の仕方を身に付けられるように、学習過程に沿って学習を積み重ねる。そのためにノートの取り方も指導する。</p> <p>①思考の観点を明確にして観察・実験等を行う。</p> <p>⑥観察や実験の結果の考察では比較する視点を焦点化して指導する。</p> <p>⑤意見交換を行う時間を確保し、小グループから全体へ交流を広げる。</p> <p>⑦導入で実物や映像を活用したり、普段の生活を想起させたりして、問題意識をもって活動に取り組ませる。</p> <p>③学習の中で気付いたことや疑問などが出た場合は、その都度記録させて共有したり、実験や観察を通して学んだことを、実生活場面ではどうなるかを考えさせたりする。</p>	
音楽	①⑤⑩	<p>⑤⑩少人数のグループで歌ったり、意見を交換したりする活動を多く取り入れ、表現する経験を積むことができるようにする。</p> <p>①児童にとって親しみのある楽曲を取り上げることで、音楽への興味関心を高め、音楽を形づくっている要素への気付きを促す。</p>	

図画工作	③⑦④⑥⑩	<p>③⑦児童が手や体全体を十分に働かせて、存分に題材や材料に親しむことができるようにして、創造的につくったり表したりする活動時間を確保する。</p> <p>④⑥身近にある材料の形や色の特徴を生かして絵の具やクレヨンの色の組み合わせ、紙や木材を思いのままに切ったり分解したり組み合わせたりする活動を行う。</p> <p>⑩進んで表現したり鑑賞したりする活動に取り組み、友達や身近な作品の良さを感じとり、自分の発想と表現の力をつける。</p>	
体育	②④⑧⑨⑩	<p>⑧安全に関する指導を徹底する。</p> <p>②授業の中で十分な運動量を確保し、それぞれの運動に必要な技能を身に付けさせる。</p> <p>④毎時間のめあてを明確にし、目的意識をもって運動を行わせる。</p> <p>⑨運動のコツや自分の課題など、その日の学習について毎時間振り返りを書かせる。</p> <p>④ICT機器を活用し、自分の課題を見つけたり課題解決の方法を考えたりする。</p> <p>②それぞれの運動の特性に触れたり楽しさを味わったりしながら、基本的な動きや技能を身に付ける。</p> <p>④学習カードを活用し、皆の課題や自分の課題を書いたり練習方法の工夫を記録したりする。</p> <p>⑩単元の後半では、練習方法を友達と教え合ったり、できるようになったことや技能の向上を友達と認め合ったりする場面をもつ。</p>	
外国語活動	①②③⑤⑥⑦ ⑨	<p>①外国語の音声を聞いたり、発音や発話したりする活動を充実させる。</p> <p>②ALTとのSmalltalkを取り入れ、ALTと担任のやりとりから、教師と児童へのやりとりへと発展させていくようにする。</p> <p>⑦児童が自ら発話したくなるような言語活動を取り入れる。</p> <p>③担任が表情やジェスチャー等で外国語を表現する。</p> <p>⑨ALTの協力を得て、指導体制の充実を図る。</p> <p>⑤児童が外国語を用いて発音する機会を多く使い、外国語で伝え合える場面を適宜設ける。</p> <p>⑥ゲーム活動やコミュニケーション活動を多く取り入れることで、外国語に慣れ親しめるような場面を多く取り入れる。</p>	
特別の教科 道徳	⑤⑥⑧⑨	<p>⑤教材の世界と自分の生活を結び付けながら、多面的・多角的に考えられるように、切り返しの発問を取り入れる。</p> <p>⑥小集団での議論から学級全体への議論へと発展させ、一人一人の納得に繋げるようにする。</p> <p>⑧⑨学習の終わりには、本時で学んだこと、分かったこと、これまでの経験とこれからの自分を比べて考えたことなどを振り返りとして書かせる。</p>	

A・・・取組の効果が十分に見られた

B・・・今後も課題として取り組む

C・・・取組を見直す

2 学力向上を図る取組

(1) 各教科の授業における取組(高学年)

本校で身に付けさせる学力

知識及び技能の習得	思考力・判断力・表現力等の育成	学びに向かう力・人間性等の涵養
①一般的な語句などの語彙力、基本的な概念や技能、性質等 ②既習の知識をもとにして、新たな知識を学習する力 ③既得の知識及び技能を、他の学習や生活の場面でも活用するための力	④問題を見出し、解決のために「計画」「実行」「振り返り」を行い、次につなげる力 ⑤互いの考えを適切に伝え合い、多様な考えを理解する力 ⑥自分や集団の考えを形成し表現する力	⑦課題解決に対して、人に聞いたり調べたりして、粘り強く向き合う力 ⑧自己の感情や行動を統制する力 ⑨自己の思考や行動を客観的に把握し認識する、「メタ認知」に関わる力 ⑩互いのよさを生かして協働する力



教科・領域	重点的に身に付けさせる学力	具体的な取組	成果
国語	①②③④⑥⑦ ⑨	<ul style="list-style-type: none"> ①適度な速さと正確な音読を指導し、言葉や一文のまとまりを適切に捉えることができるようにする。 ①既習漢字の定着を図るために、授業の始めに漢字学習タイムを設ける。 ①国語辞典を机の横にかけておき、単元の導入時などあらゆる場面で活用し、語彙を増やす。 ②前時の板書を見せる、単元の計画を教室に掲示しておくなど、これまでの学習で得た知識を振り返ることができる機会をつくる。 ③⑨単元のゴールを意識させ、単元の終末には、どのような力が身に付いたのかを振り返るようにする。 ④⑨単元の学習課題やめあてとまとめを正対させた授業を確実に行うとともに、毎時間の最後に振り返りを書かせて何ができるようになったのかを児童に自覚させる。 ⑥課題に対する自分の立場を選択したり、2つの考えを比較したりする場面を設け、自分の考えの理由を述べるができるようにする。 ⑦自己の考えを形成する場面において、完成モデルや未完成モデル、児童が活用できそうな資料などを用意し、ゴールへの見通しを持たせた言語活動を行う。 	
社会	①③④⑦	<ul style="list-style-type: none"> ①グラフや資料の適切な見方を繰り返し指導し、自力で読み取る時間を確保する。 ①デジタル教材(動画や画像資料)を活用する。 ③新聞・ニュースなどにふれる機会や日々の生活との関連を見つけさせるなどの機会をつくる。 ④単元の導入では、社会的事象について一定の知識を共有し、児童の当事者性を醸成できる問いを与える。 ④単元を方向づける問いから、児童の仮説や予想を基に学習計画を立てる活動を行う。 	

		⑦児童が扱いやすい資料を用意したり、調べ方を全体で共有したり、個人調査だけでなくグループワーク・ペア学習など課題に応じた学習形態を工夫して、児童が調べ切ることができるようにする。	
算数	①②③④⑥⑦	<p>①個に応じた指導や支援を行い、基礎・基本の定着を図る。</p> <p>②前時までの復習を繰り返し行うことで、基礎・基本の定着を図る。</p> <p>③問題文を絵や図、に置き換えて表現する指導の充実を図り、題意を捉える力を養う。</p> <p>②適用、適応問題に取り組む活動を充実させ、学習の定着を図る。</p> <p>⑥問題文を音読し、数直線や図などに表すことで問題場面の状況や条件を捉える力を養う。</p> <p>③実際に作図をしたり児童が操作できる具体物を用いたりして実感をともなった知識を身に付けるようにする。</p> <p>④本時の課題を明確にし、課題解決に使える既習事項を意識させ、課題解決に取り組ませる。また、本時で学んだことを自分の言葉で書く時間を確保する。</p> <p>⑦単元の学習内容に応じて、児童1人1人にICT端末を準備し、自力解決の充実を図る。</p>	
理科	①④⑦	<p>④毎時間自分の考え(予想や考察)をもたせ、ノートに記述させることを積み重ねる。</p> <p>④学習過程を定着させ、学習内容(課題、予想、観察・実験、結果、考察・まとめ)を整理して捉えられるようにする。</p> <p>⑦実物や映像等に触れさせることで、より実生活に即した身近な現象として捉えることができるようにする。</p> <p>①観察・実験等の行い方や道具の扱い方を確認し、安全な学習の進め方について、自ら考えられるように、繰り返し指導する。</p>	
音楽	②⑤⑩	<p>②わらべ歌や童謡など、児童が親しんできた音楽を聴いたり歌ったりしながら、音楽を形づくっている要素への関心を高め、相違点に気付かせる。</p> <p>⑤互いの歌唱や演奏を観点に基づいて聴き合い、良さや工夫を伝え合う活動を取り入れる。</p> <p>⑩音楽を聴いたり表現したりする過程で、少人数グループや個人での演奏場面を設定する。</p>	
図画工作	②③⑤⑩	<p>②題材との出会いを大切に、材料の形や素材の良さから、組み合わせ方などを試し想像を膨らます活動を十分に行い、発想や知識・技能をわきたせる。</p> <p>③絵や立体の形や色、材料の特徴や構成の美しさ、用途を考えながら表現力を身につける。</p> <p>⑤⑩主体的に表現し、友達同士で作品の良いところを伝え合う活動を取り入れるとともに、形や色などに関わり、楽しく豊かな生活を想像する授業の充実を図る。</p>	

家庭	②③④①⑤⑥ ⑨	②③④家庭生活に必要な基礎的知識の定着を図り、実践的・体験的な活動を通し技能を習得させ、何ができたか身についたかを自覚させる。 ①系統性のある実践的・体験的な活動を充実させ、学習した技能の定着を図る。 ⑤⑥⑨学習過程のふり返りを必ず実践する。	
体育	①④⑤⑦	④本時のめあてを明確に示すことで授業の見通しをもち、授業の終わりには、できるようになったことを振り返る。 ⑤友達やグループ同士で声をかけたり、ICT 機器を活用し正しい動きと自分の動きを見比べることで、課題を見つけたり課題解決の時間を取り入れたりする。 ①授業の中で十分な運動量を確保し、それぞれの運動に応じた基本的な技能を身に付けさせる。 ⑤学習カードを活用し、単元の課題や自分のめあてを書いたり練習方法の工夫を記録したりする。 ⑦ICT機器を活用し、自分のフォームを確認することで、課題を見つけたり課題解決の方法を考えたりする。 ①授業の中で十分な運動量を確保し、安全に気を付けながら、それぞれの運動に応じた基本的な技能を身に付けさせる。	
外国語科	①②⑤⑥⑦⑨	⑦身近な話題を提供するなど児童の興味・関心が高まるような授業を展開していく。 ⑨ALT の協力を得て、指導体制の指導充実を図る。 ①テキストをもとに、簡単な外国語を読む・書く活動を取り入れ、基礎的な技能の習得を図る。 ⑥ゲーム活動やコミュニケーション活動を多く取り入れる中で、外国語に慣れ親しみ、外国語を活用する機会を増やし、実際に外国語で伝え合えるようにしていく。 ②既習表現を繰り返し使用する機会を増やし、学習の定着を図る。 ⑤児童が外国語を用いて発音する機会を多く使い、外国語で伝え合える場面を適宜設ける。	
特別の教科 道徳	⑤⑥⑨	⑤ペアやグループでの話し合い活動や ICT の活用を行い、互いの考えを見たり聴いたりする場面を取り入れる。 ⑥問題となる場面について、既成概念を揺さぶる発問を投げかけ、自分の立場を選択したり、その理由を考えたりする時間を設ける。 ⑨道徳ノートを活用し、自分の考えを整理したり、振り返ったりする時間を設け、自己内対話を深める。	

A・・・取組の効果が十分に見られた B・・・今後も課題として取り組む C・・・取組を見直す

(2) 教育活動全体を通じた取組

本校の特色ある取組

- | | |
|------------------|--|
| ○毎時間の授業の充実 | ○「授業で勝負」を合い言葉に、毎時間の授業の充実を図っている。特に国語、算数においては基礎・基本の定着とともに、児童の実態に合わせ、既習事項を生かして各教科の資質・能力を問う発問を行うことで、学力向上を図っている。 |
| ○読書活動の充実 | ○異学年でペアを作り、読み聞かせを行う「読書ライン」、決まったテーマにそって読む「読書ビンゴ」、教師による本の読み聞かせも実施している。また、本の紹介コーナーの設置や、図書掲示を充実させることで、読書意欲を喚起している。 |
| ○教科書の音読 | ○各教科、教科書のあるものについては、声に出して読む取組を行っている。教科書を読むことで正しい文章構成、表現を覚える機会を設け、確かな読みの力の育成を図っている。 |
| ○20分の業間休み | ○業間休みを毎日20分確保することで、広い校庭で思いきり遊んだり、様々な活動を落ち着いて取り組んだりできるようにしている。 |
| ○外国語学習の充実 | ○1・2年生は「英語活動」、3・4年生は「外国語活動」、5・6年生は「外国語科」と、全学年、外国語の学習を実施している。また、指導に関連する研修を学期に1回以上実施して、外国語における授業力向上を図っている。 |
| ○縦割り活動による協働活動の充実 | ○年間を通して行う縦割り班による「遊び集会」や、年1回実施する「みなみっ子まつり」を通して、望ましい人間関係の構築を目指している。 |
| ○幼保小の連携 | ○1年生が近隣の幼稚園、保育園の園児を招いて、2学期に交流会を行っている。 |
| ○環境教育の充実 | ○年に2回、全校児童が除草作業、落ち葉拾いを実施している。学校応援団や地域の方も一緒に取り組んでいる。自然豊かな学校を、全員で大切にしている取組を行っている。 |

家庭教育との連携

○家庭学習の習慣化	○学習習慣を身に付けさせるための学年に応じた適度な質と量の家庭学習を実施に努めている。 ○年度初めに「家庭学習の進め方」を保護者に発信するとともに、宿題の見届け、確認の協力をしていただいている。
○「まなびポケット」の活用	○「まなびポケット」内の「スクールタクト」「eboard」等を活用できるよう、児童に指導し、保護者にも促している。また、児童には、授業中にも活用することで日常化し、家庭で楽しみながら学習できる情報を発信し、啓発している。
○一人一台のICT端末の効果的活用	○授業だけでなく、家庭学習、連絡帳としての活用等、ICT端末の効果的な活用を日々模索しながら、2年生以上において、一人一台のタブレットの活用を実施している。
○情報発信	○学校の運営方針や学校行事等に関する事、教育活動に関する事などの情報を学校・学年便り、ホームページで発信し、啓発している。
○学校応援団による支援	○授業支援において、家庭にも要請を行い、応援団とともに支援をいただきながら、学校教育を進めている。
○個人面談の実施	○1学期前半・2学期後半に個人面談を行うことで、学校と家庭が情報交換・共有を行い、連携を図っている。
○教育相談の実施	○月に1回「みなみっ子相談室」（教育相談日）を設定し、子供のことについての悩み等のある保護者との連携を図っている。
○小中連携	○大石南中学校の兼務校教員が本校6年生の授業に入り、支援や情報交換の連携を図っているため、教員同士の小中連携だけでなく、家庭とのやりとりにおいても一助となっている。